

「支援」 子ども同士の支援的な関係を結ぶ①

「支持的風土」は、もともと「支援的風土」と言い換えてもよいくらい「支援」は支持的風土づくりの核となる概念です。「支援」の定義を学校支援課では次のように示しています。

支援とは

- 相手の立場や状況、気持ちに応じた援助をし、相手に自信をもたせること。
- 相手が困っているときには、誰かれなく進んで手をさしのべること。（「テロワール」第3号より）

- × 支援する側の目線で行う援助
- ◎ 手をさしのべる、時には見守る、待つなど相手の身になって行う援助

「支持的風土づくり」のためには、教師が子どもを支援することは当然ですが、それだけでは十分ではありません。大切なのは、子ども同士が支援的な関係を結べるかどうかにあります。子ども同士が支援的な関係にある学級とは、次のような学級です。

子ども同士が支援的な関係にある学級の姿

- “一人残らず学級の全員がゴールする”ことを学級の全員が目標にしている学級

“一人残らず学級の全員がゴールする”とは、同時に全員がゴールすることではありません。自分さえできればよい、分かればよいという心構えでなく、学級の仲間全員がゴールを目指すのだという心構えを大切にすることです。このことを全員が共通理解している学級は、どんな場合でも、その時々で困っている仲間のことを考え、行動することを大切にしている学級です。

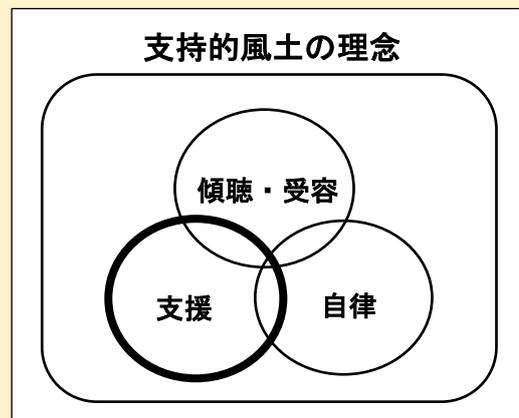
- 自分は誰からもいつでも助けられる、自分の方から遠慮なく誰に対しても常に助けを求められるという安心感がある学級

助けを求める側には、常に断られたらどうしようという不安があります。そんな心配のいらぬ「相手は決して断らない、必ず教えてくれる」という信頼関係で結ばれている学級です。

- どの子どもにも必ず出番がある学級

出番の少ない仲間にはみんなで出番を譲ったり、作ったりし合える学級です。失敗しても恥ずかしくない、みんなが応援してくれるという確信があれば、どの子どもも安心して挑戦できます。

支持的風土の理念



このような子ども同士の支援的な関係のある学級にするためのポイントを次号12号でいくつか紹介します。目の前の子どもの実態、発達段階に合わせて読むことで、支持的風土づくりを考える手掛かりとしてください。

「支援」 子ども同士の支援的な関係を結ぶ②

子ども同士が支援的な関係で結ばれる学級にするための指導のポイントをいくつか紹介します。

子どもへの指導のポイント

- ① 教えてもらったり、助けてもらったりしたら、必ず「ありがとう」という感謝の気持ちを言葉で伝えるように指導する。

これによって、学級の中での「支援」がスムーズに機能していきます。

- ② 自分さえできればよいのではなく、グループのメンバー全員がゴールすることを全員が自分の目標とするよう働き掛ける。

「支援」の具体的な場面としては、ペア学習や小集団学習の場面が相応しく、このことを達成するために有効です。

- × 助けることを義務にした時には、それが互いの負担となり、その関係は必ず破綻していきます。
- ◎ 「自分が早くゴールした時は、まだゴールしていない仲間のために、おしみなく自分の力を使う」ということを学級の全員が共通理解していることが大切です。

- ③ 「相手のよさやできたことを認める声掛け」「相手を励ます声掛け」「相手に期待をする声掛け」などの声掛けを意識的に行うよう働き掛ける。

これは協同的な集団であればこそできることであり、意欲づくりにはとても大きな要素になっていきます。競争的な集団では、これと正反対の声掛けが行われます。

- ④ 「相手ができるようになることがうれしい」「相手ができる時には一緒に喜ぶ」「相手の喜びは自分の喜びでもある」という気持ちをもって仲間と接することを大切にさせる。

子どもにとって難しいことですが、できるだけそうなりたいと子どもが願っていることに価値があります。

教師の子どもへの「支援」の心構えとしては、例えば次のようなものがあります。

支援を行うときの教師の心構え

- ① 子どもが「自分の力でできた」という実感を味わうことができるようにする。

分からなかったり、困っている子どもに対して単に答えを教えたり、一方的に説明するのではなく、相手に応じた投げ掛けによって答えや考えを引き出すなど、子どもに「自分でできた」と自信をもたせるようにします。

- ② 得意なこと、できること、集団のために貢献できることなど、その子なりの力が発揮できる機会・場面を積極的に用意し、その挑戦を応援していく。

これは積極的な「支援」であり、そのことで人間関係もすこぶるよくなっていきます。

「支援」は、基本的には、相手が困ったり、分からなかった時に助けたり、教えたりすることですが、そこで大事なことは、上からの目線ではなく、あくまでも「一緒に学ぶ」という姿勢で「支援」すること、相手の「一人立ち」を目指した「支援」であることが重要です。

次号は、「学級としての『自律』」です